

# 気候変動予測計算結果の取りまとめ に向けた今後の方針について

---

1

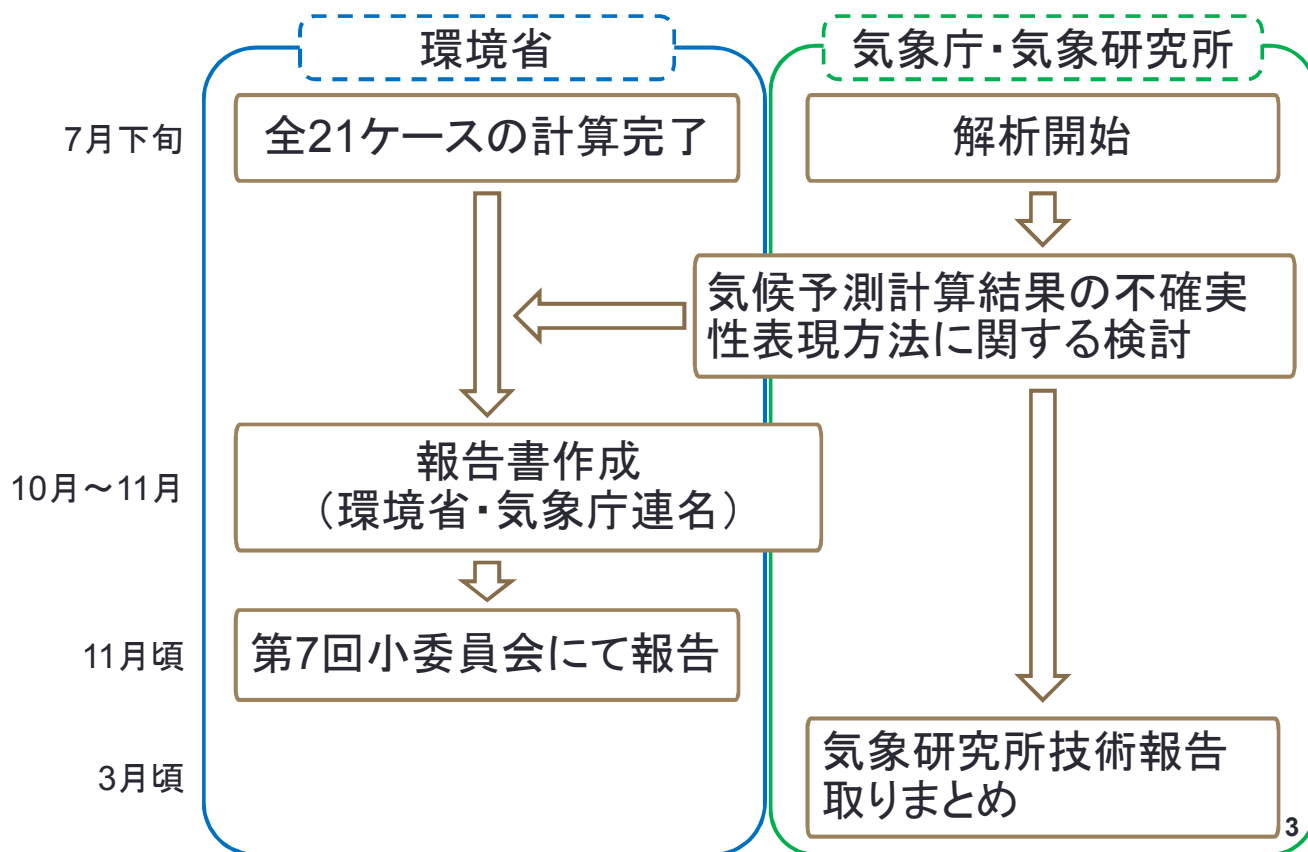
## 取りまとめに向けた作業実施方針

第5回気候変動影響評価等小委員会におけるご意見を踏まえ、  
以下の方針で気候変動予測計算結果の取りまとめを行う。

- ▶ **解析は気象庁・気象研究所と連携**  
複数の気候予測計算結果をもとにした不確実性の表現方法の検討
- ▶ **詳細な報告書の作成**  
モデルの概要や海面水温等の予測計算の諸条件を記載
- ▶ **本調査に関する科学的報告物の作成**  
「気象研究所技術報告」への取りまとめ、査読付き論文の作成等

2

# 作業実施の流れ



# 報告書の骨子(案)

## 1. はじめに

ー背景、目的 (気候変動予測データの位置付け、活用方針等)

## 2. 気候変動予測計算の諸条件

ー気候モデルの概要

ーケース設定 (現在気候3ケース、将来気候18ケース)

ー条件 (予測期間、排出シナリオ、海面水温、積雲対流スキーム)

※各項目の解説を含む。

## 3. 気候変動予測計算結果

ー現在気候の再現性 (積雲対流スキーム別3ケース)

ー将来気候の計算結果 (将来気候18ケース : RCP 8.5/6.0/4.5/2.6 )

## 4. 解析方法

ーアンサンブルの不確実性表示のための方法論

## 5. 解析結果の概要

## 6. データの活用方法

## 7. まとめ

○実験内容等に関する記述を加筆し、前提条件等を明確にする。

○気象庁及び気象研究所の協力の下で検討される、複数ケースのアンサンブル表示の方法論を反映。